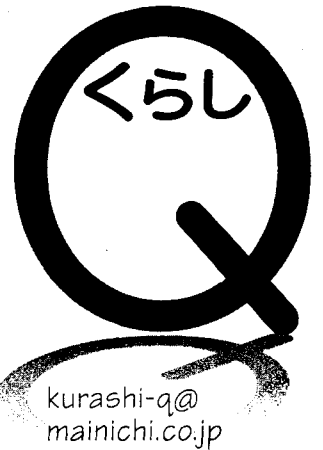


学童保育



国は4月施行の「子ども・子育て支援新制度」で、学童保育(放課後児童クラブ)の受け皿の拡大や質の向上を進めている。共働き家庭で放課後の子供の預け先がなく、母親が離職を強いられる「小1の壁」の打破が狙いだ。国の動きに先立ち、北九州市は2008年度に高学年や専業主婦家庭も含めた希望する全児童を受け入れる方針を打ち出した。同市の学童を取材し、課題などを探った。【高芝菜穂子】

希望者増で進む大規模化

児童の生活の場

北九州市小倉北区にある「霧丘学童保育クラブ」は小学校の校庭の隅にある2階建ての建物で、1〜6年生が放課後や長期休みを過ごす。3月中旬、午後3時過ぎにはランドセルを背負った児童の元

気な声が聞こえた。「おかえり」。主任指導員の河井ちづるさん(59)らが、笑顔で迎える。この日は児童61人が自主的に宿題を上げ、終わるとおやつを食べ、運動場で遊んだ。

モットーは「子供一人一人が、笑顔でほっとできる居場所づくり」。河井さんは「学童は家庭に代わる『生活の場』。子供が安心して過ごすことで、保護者の働く権利を守る役割もある」と話す。教員か保育士の資格を持つ正規指導員5人に加え、補助指導員4人、事務員1人が児童を見守

る。家庭的な環境を心がけ、おやつや食事は手作りも取り入れる。長期休みには連日、昼食作りや絵画教室などを開催。年6回の保護者会や年3回の親子行事もある。地域や学校、保護者の代表で組織する運営委員会事務局長、塩塚茂嘉さん(85)

が不明確で、施設整備や指導員の処遇改善の遅れが指摘されてきた。子ども・子育て支援新制度で国は19年度末までに、新たに約30万人分の受け皿を整備する方針だ。市町村は国の基準を踏まえ、設備や運営の基準を条例で定め、計画的

00人以上が希望した。本来は3集団に分けることが望まれる。しかし施設の設計上難しく、全員が同じ部屋で過ごす。河井さんは「全員が同じ部屋では、手がかかる子に目が行き、おとなしい子は把握しづらい。台所など必要設備を備えた

た。全体のおよそ3分の1ほど。全員が遊び出すと会話も聞こえにくい。こまやかな保育内容の確保には、行政の責任で小学1年生の1クラス(35人)以下の集団ごとに、専用の部屋と複数の正規指導員を設ける環境が必要だと感じ



宿題をする子供たちを見守る主任指導員の河井さん(中央)

会社運営施設も

福岡市では4月、各社が民間一般の学童の終了時刻が午後6〜7時ごろまでなのに対し、早良区では、JR九州が運営する「Kids JR高取」と、午後10時まで。料金は一般の学童の多くが月1万円までなのに、KTC中央学院が運営する「KTC放課後スクール Hu」でおよそ月4万円以上。その「PON(ハクポン)」が誕生した。両社とも周辺に小学校グラムの充実などをうたっている。

は「学童は子供を預かるだけでなく、保護者と指導員と一緒に子供を育て合う場所」と語る。

小集団での保育を

厚生労働省によると、学童の利用児童数は年々増え、14年5月現在、全国で93万6452人。待機児童数は9945人に上る。しかし、公的責任

に整備を進める。集団の規模については国は、おおむね40人以下とする。こうした国の方針に対し、現場では「適した施設が足りない」との声がある。北九州市では、1校で200人以上が希望する小学校もあり、こうした所は名簿上は複数に分割される。霧丘学童も、15年の4月はいずれも1

小集団で過ごせる部屋を整備してほしい」と訴える。また、正規指導員が1人しかおらず、ゲームやテレビ、マンガを見せられて過ごさせたり、砂遊びを禁止したりする学童もあり、保育内容の格差も課題だ。

★取材してひとこと

「あやとりを見て」「読みたかった本を学童で買ってもらった」などと取材中、次々と児童に話しかけられた。しかし、2時間いて答えられたのは